

愛知・岐阜・三重県で1997年に出生した日本人  
63,079名中の口唇・口蓋裂発生頻度に関する研究  
(分担研究：先天異常のモニタリングに関する研究)

分担研究者 住吉好雄  
研究協力者 夏目長門<sup>1)</sup>  
共同研究者 吉田和加<sup>1)</sup>, 新美照幸<sup>1)</sup>, 木下弘幸<sup>1)</sup>, 古川博雄<sup>1)</sup>, 豊田哲郎<sup>1)</sup>, 小木信美<sup>1)</sup>,  
河合俊彦<sup>1)</sup>, 鈴木俊夫<sup>1)</sup>, 河合 幹<sup>1)</sup>

要約：

1997年1月1日より12月31日の間に出生した日本人63,079名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、101名(0.160%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は625人に1人であった。

見出し語：口唇裂, 口蓋裂, 発現率

研究方法：愛知・岐阜・三重の3県下に所在するすべての出産施設に調査依頼を行い、協力の得られた544施設のうち233施設を調査対象施設とした。調査対象者は、63,079名であり、これは同時期の愛知・岐阜・三重県の全出生数110,582名の57.04%である。

下記の項目について記載を依頼した。

1. 施設における総出生数
2. 口唇・口蓋裂児の有無
  - a. 裂型 b. 性別 c. 出生月 d. 出生時体重 e. 在胎期間 f. 分娩方法 g. 他の合併症の有無、内容
3. 施設所在地

結果：愛知県の総出生数の54.7%に当たる39,912名(127施設)、岐阜県の総出生数の70.1%に当たる13,966名(62施設)、三重県の

総出生数の52.1%に当たる9,201名(44施設)について調査した(表1)。

本調査では愛知県は39,912名中に62名、岐阜県は13,966名中に25名、三重県は9,201名中に14名の口唇・口蓋裂児が認められた。その結果、本症の出現率は愛知県は0.155%(1:643.7)、岐阜県は0.179%(1:558.6)、三重県は0.152%(1:657.2)であった(表2)。この数値をもとに調査対象年の本症患者の総出生数を推定すると95%信頼限界内において、愛知県は112.0~112.3名、岐阜県は36.1~36.2名、三重県は28.6~28.7名の本症患者が出生していたと推定される。また、同様に人口動態統計をもとに我が国全体で出生していたと推定される本症患者は1926.3~1930.1名である(表3)。

表1 調査対象者

	愛知県			岐阜県			三重県		
	調査対象者	総出生児数	調査率	調査対象者	総出生児数	調査率	調査対象者	総出生児数	調査率
1982年	40,304名	82,001名	49.2%						
1983年	39,696名	83,925名	47.3%						
1984年	41,529名	83,304名	49.9%						
1985年	43,821名	80,686名	54.3%						
1986年	42,375名	77,426名	54.7%	11,336名	22,597名	50.2%			
1987年	42,107名	77,734名	54.2%	9,331名	22,367名	41.7%			
1988年	33,545名	75,286名	54.7%	8,182名	21,791名	37.5%	8,294名	18,931名	43.8%
1989年	40,091名	71,651名	56.0%	8,989名	20,614名	43.6%	7,704名	18,183名	42.4%
1990年	34,034名	70,942名	48.0%	14,280名	20,295名	70.4%	12,058名	17,918名	67.3%
1991年	39,078名	70,968名	55.1%	14,716名	20,033名	73.5%	12,434名	17,519名	71.0%
1992年	44,094名	71,688名	61.5%	11,416名	20,347名	56.1%	9,697名	17,686名	54.8%
1993年	41,569名	70,807名	58.7%	14,477名	20,017名	72.3%	11,622名	17,368名	66.9%
1994年	41,626名	74,180名	56.1%	12,047名	20,623名	58.4%	10,938名	18,144名	60.3%
1995年	38,577名	71,899名	53.7%	14,987名	20,187名	74.2%	9,289名	17,500名	53.1%
1996年	37,100名	73,377名	50.6%	14,337名	20,546名	69.8%	10,475名	17,780名	58.9%
1997年	39,912名	72,992名	54.7%	13,966名	19,930名	70.1%	9,201名	17,660名	52.1%
合計	639,458名	1,208,865名	52.9%	148,064名	249,347名	59.4%	101,712名	178,689名	56.9%

1)愛知学院大学歯学部口腔外科学第2講座 (The 2nd Dept. of Oral & Maxillofacial Surgery, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University)

表2 本症患者出現頻度

	愛知県				岐阜県				三重県			
	本症患者	調査対象者	出現率	出現頻度	本症患者	調査対象者	出現率	出現頻度	本症患者	調査対象者	出現率	出現頻度
1982年	83名	40,304名	0.206%	1: 485.6								
1983年	65名	39,696名	0.164%	1: 610.7								
1984年	52名	41,529名	0.125%	1: 798.6								
1985年	64名	43,821名	0.146%	1: 684.7								
1986年	60名	42,375名	0.142%	1: 706.3	21名	11,336名	0.185%	1: 539.8				
1987年	61名	42,107名	0.145%	1: 690.3	14名	9,331名	0.150%	1: 666.5				
1988年	40名	33,545名	0.119%	1: 838.6	18名	8,182名	0.220%	1: 454.6	13名	8,249名	0.158%	1: 634.5
1989年	58名	40,091名	0.145%	1: 691.2	12名	8,989名	0.133%	1: 749.1	13名	7,704名	0.169%	1: 592.6
1990年	44名	34,034名	0.129%	1: 773.5	18名	14,280名	0.126%	1: 793.3	17名	12,058名	0.141%	1: 709.3
1991年	45名	39,078名	0.115%	1: 868.4	25名	14,716名	0.170%	1: 588.6	16名	12,434名	0.129%	1: 777.1
1992年	54名	44,094名	0.122%	1: 816.6	23名	11,416名	0.201%	1: 496.3	13名	9,697名	0.134%	1: 745.9
1993年	71名	41,569名	0.171%	1: 585.5	15名	14,477名	0.104%	1: 965.1	10名	11,622名	0.086%	1: 1162.2
1994年	50名	41,462名	0.121%	1: 829.2	10名	12,047名	0.083%	1: 1204.7	15名	10,938名	0.137%	1: 729.2
1995年	58名	38,577名	0.150%	1: 665.1	20名	14,987名	0.133%	1: 749.4	16名	9,289名	0.172%	1: 580.8
1996年	57名	37,100名	0.154%	1: 650.9	26名	14,337名	0.181%	1: 551.4	17名	10,475名	0.162%	1: 616.2
1997年	62名	39,912名	0.155%	2: 643.7	25名	13,966名	0.179%	2: 558.6	14名	9,201名	0.152%	2: 657.2
合計	924名	639,294名	0.145%	1: 691.9	227名	148,064名	0.153%	1: 680.5	144名	101,667名	0.142%	1: 706.0

表3 本症患者の総出生数の推定

	愛知県		岐阜県		三重県		全国	
1982年	168.6	～ 169.2名					3117.3	～ 3124.1名 (95% C.L.)
1983年	136.5	～ 137.1名					2467.3	～ 2473.5名 (95% C.L.)
1984年	103.9	～ 104.7名					1862.8	～ 1868.0名 (95% C.L.)
1985年	117.5	～ 118.1名					2088.2	～ 2093.4名 (95% C.L.)
1986年	109.8	～ 110.1名	41.6	～ 41.9名			1955.6	～ 1960.7名 (95% C.L.)
1987年	112.6	～ 112.9名	33.5	～ 33.6名			1948.4	～ 1953.4名 (95% C.L.)
1988年	89.4	～ 89.7名	47.8	～ 48.1名	29.8	～ 30.0名	1964.4	～ 1969.3名 (95% C.L.)
1989年	105.2	～ 105.5名	28.0	～ 28.1名	35.4	～ 35.5名	1801.4	～ 1806.1名 (95% C.L.)
1990年	91.4	～ 91.7名	26.0	～ 26.1名	25.2	～ 25.3名	1577.0	～ 1581.8名 (95% C.L.)
1991年	81.6	～ 81.8名	34.0	～ 34.1名	23.4	～ 23.5名	1410.6	～ 1417.3名 (95% C.L.)
1992年	87.3	～ 87.6名	40.8	～ 41.0名	25.4	～ 25.5名	1473.0	～ 1477.0名 (95% C.L.)
1993年	120.9	～ 121.2名	20.8	～ 20.9名	14.9	～ 15.0名	1684.1	～ 1687.5名 (95% C.L.)
1994年	89.3	～ 89.6名	34.0	～ 34.1名	24.8	～ 24.9名	1491.1	～ 1495.4名 (95% C.L.)
1995年	108.0	～ 108.2名	26.9	～ 27.0名	30.1	～ 30.2名	1773.5	～ 1777.1名 (95% C.L.)
1996年	112.6	～ 112.9名	37.2	～ 37.3名	28.8	～ 28.9名	1950.3	～ 1954.2名 (95% C.L.)
1997年	112.0	～ 112.3名	36.1	～ 36.2名	28.6	～ 28.7名	1926.3	～ 1930.1名 (96% C.L.)

裂型分類についてみると愛知県では口唇裂 10 名、口唇・口蓋裂 38 名、口蓋裂 14 名、岐阜県では口唇裂 3 名、口唇・口蓋裂 12 名、口蓋裂 10 名、三重県では口唇裂 6 名、口唇・口蓋裂 6 名、口蓋裂 2 名であった(表4)。

また、裂型・性別の明らかな 1,194 名中の裂型・性別合併症発現比率について集計したところ男では口唇裂 12.6%、口唇・口蓋裂 13.6%、口蓋裂 27.0%、女では口唇裂 9.6%、口唇・口蓋裂 20.5%、口蓋裂 21.8%であった(表5)。

表4 裂型分類(愛知・三重・岐阜)

	単位:名			合計
	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	
愛知	10	38	14	62
岐阜	3	12	10	25
三重	6	6	2	14
合計	19	56	26	101

本調査も愛知県においては 17 年目を迎え、患者数も愛知・岐阜・三重の 3 県を合わせると 1,300 名を超

えた。そこで生下時体重が明らかな 1,117 名について裂型別に体重を集計したところ、口唇裂 2993.7 g (±27.2)、口唇・口蓋裂 2949.8 g (±26.0)、口蓋裂 3002.3 g (±31.3)、男女別では男 3009.1 g (±22.6)、女 2936.1 g (±23.2) であった (表 6)。

表5 裂型・性別合併症発現比率  
単位：名

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	計
男	29/230 12.6%	40/295 13.6%	24/89 27.0%	93/614 15.1%
女	16/166 9.6%	41/200 20.5%	32/147 21.8%	89/513 17.3%
合計	45/396 11.4%	81/495 16.3%	56/236 23.7%	182/1127 16.1%

1983~1997年 愛知・三重・岐阜三県の裂型性別の明らかな1194名中、合併症不明67名を除く

表6 裂型・性別平均体重  
(g) Mean(±SE)

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	計
男	3021.7 (±36.7)	2991.6 (±33.1)	3027.7 (±58.2)	3009.1 (±22.6)
女	2954.4 (±40.0)	2886.6 (±41.4)	2989.8 (±36.5)	2936.1 (±23.2)
合計	2993.7 (±27.2)	2949.8 (±6.0)	3002.3 (±31.3)	2976.1 (±16.3)

対象患児：1984~1997年 愛知、岐阜、三重  
三県の裂型、体重、性別の明らかな1117名

また、出生月の明らかな 1,202 名についてその出生月を集計し、1995 年より調査を開始した在胎期間と分娩方法についても集計を行なったのであわせて報告する (表 7-9)。

考察：

本研究は 1981 年より本学の所在する愛知県において愛知県産婦人科医会、並びに助産婦会の協力を得て調査を開始し、1984 年から解析プログラムを開発してデータベース化をはかっている。本プログラムには 1997 年までの 1,248 名の登録を行った。本データベースに登録された 1982~1997 年の総調査対象数は 889,234 名で本症患者は 1,295 名であったので、本症発現率は 0.146% であった。

裂型分類については 1981~1997 年の 1,338 名についてみると表 10 のごとく男では口唇裂 264 名、口唇・口蓋裂 366 名、口蓋裂 109 名であった。女では口唇裂 185 名、口唇口蓋裂 243 名、口蓋裂 171 名であった。

表7 月別出生数  
※1 ※2

出生月	出生数	出生率	全国平均
1月	87	7.2%	8.3%
2月	89	7.4%	7.5%
3月	106	8.8%	8.1%
4月	98	8.2%	8.2%
5月	82	6.8%	8.6%
6月	89	7.4%	8.3%
7月	102	8.5%	8.9%
8月	119	9.9%	8.8%
9月	94	7.8%	8.5%
10月	123	10.2%	8.4%
11月	96	8.0%	8.0%
12月	117	9.7%	8.4%
合計	1,202	100.0%	100.0%

※1 1982年~1997年 愛知、岐阜、三重県の出生月の明らかな1202名の出生率

※2 全国平均は過去5年間の平均値

表8 在胎期間

在胎期間	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂
~27	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%
28~31	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%
32~36	2 2.4%	11 8.9%	6 9.4%
37~41	80 94.1%	109 87.9%	56 87.5%
42~	2 2.4%	3 2.4%	2 3.1%
合計	85 100.0%	124 100.0%	64 100.0%

1995~1997年 愛知、岐阜、三重三県の裂型の明らかな 277 名中、在胎期間不明 4 名を除く

表9 分娩方法

分娩方法	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂
自然分娩	73 86.9%	99 79.2%	53 84.1%
吸引分娩, 帝王切開など	11 13.1%	26 20.8%	10 15.9%
合計	84 100.0%	125 100.0%	63 100.0%

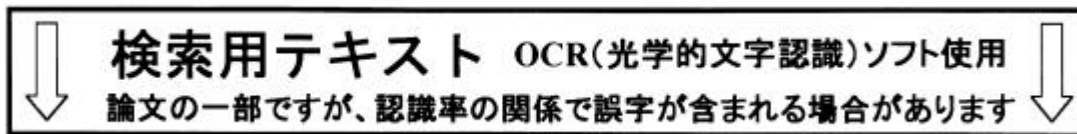
1995~1997年 愛知、岐阜、三重三県の裂型の明らかな 277 名中、在胎期間不明 5 名を除く

われわれの施設においては、データベースにて疫学解析を行う場合、病院統計による誤差を最小にするため Primary case のみを基本資料とするようにしているが、この方法をとったところで前述のことを防ぎえない。このため、われわれは、本症発現率、季節変動については東海地区の出産施設のものをモニタリングして、本症の発現率に著しい変動が生じた場合は直ちにわれわれの施設に来院した患者集団において、環境要因等を含めた詳細な調査を行う体制をとっているが、現在まで幸いにして本症発現率の著しい上昇は認めていない。しかし、今後もこのような状態が生じた場合に直ちにを即応できるような体制を維持したいを考えている。

最後に本調査に関して御協力を賜りました産婦人科医会、助産婦会の皆様及び調査集計、解析を担当した住田成子秘書に深謝致します。

表10 裂型分類（東海三県）

	口唇裂	口唇口蓋裂	口蓋裂	合計
男	264名 (35.7%)	366名 (49.5%)	109名 (14.8%)	739名 (100.0%)
女	185名 (30.9%)	243名 (40.6%)	171名 (28.5%)	599名 (100.0%)
合計	449名 (33.6)	609名 (45.5%)	280名 (20.9%)	1338名 (100.0%)



要約:

1997年1月1日より12月31日の間に出生した日本人63,079名中の口唇・口蓋裂発現率について調査を行った。その結果、101名(0.160%)に口唇・口蓋裂が認められ、口唇・口蓋裂発現頻度は625人に1人であった。